

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501361		
法人名	医療法人重仁会		
事業所名	グループホーム レガロ大谷地		
所在地	札幌市厚別区大谷地東5丁目7-14		
自己評価作成日	平成27年7月18日	評価結果市町村受理日	平成27年8月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JkyosyoCd=0190501361-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JkyosyoCd=0190501361-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	平成27年7月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地下鉄大谷地駅、バスターミナルから徒歩10分程度と交通の便が良い。  
 認知症・内科・精神科病棟を有する病院が運営母体であり、隣接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地下鉄東西線大谷地駅から徒歩10分の利便性のいい住宅地にあり、法人グループの病院に隣接した2階建て2ユニットの今年1月に開設したばかりのグループホームである。建物内は医療の経験を活かし、落ち着いた配色に統一している。廊下は車いす二台が交差できる程広く、全体的にゆったりとした空間である。運営母体は医療法人で、地域医療に永く貢献しており、地域では欠かせない病院を中心とした法人グループである。事業所は、法人母体の病院と24時間体制の医療連携を構築しており、災害対策もグループの緊急連絡体制の組織に加わるなど、開設間もないが緊急時の協力体制は構築されている。また、事業所独自の理念が完成し、今後は理念を元にケアの実践につなげていくなど地域においての認知症ケアの拠点の事業所となるよう期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在、職員会議で理念を作成中。7月中に完成する予定	法人理念の「信頼と真心」を基に、事業所の理念を職員全員で検討して「入居者の現在(いま)を大切に、ゆったり、楽しく、笑顔あふれる生活を支援し、地域に信頼される施設を目指す」を作成して、共有し実践につなげている。	法人理念とは別に事業所の理念を全職員の意見で完成したばかりなため、理念の実践を今後期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が週1回ホーム内の掃除を手伝ってくれる。	開設間もないため、地域との交流はこれからであるが、法人の病院が地域との関わりが長いので、認知症サポーター養成講座を開催するなど法人グループとしての資源を地域へ還元する計画である。	敷地一体は法人グループの施設なため、近隣の学校や商店、町内会との交流が想定され、事業所単独ではなく法人グループ全体で、自社の資源を地域へ還元するなどの交流を期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	GH単独ではやしていないが、法人として認知症カフェを計画し、地域に発信していく予定。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	参加者から出た意見を元に、行事などに反映している。	運営推進会議は、包括支援センター担当者や消防団、家族の方が参加して、定期的に開催され、参加者からの意見や提案を聞く機会となっており、特に災害対策についての意見は運営に反映している。	現在は消防団の方や地域包括センター担当者、家族の方などの参加で開催しているが、今後は町内会や地域の関係者など幅広い参加者の呼びかけを行い、より充実した運営会議の推進に期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ、特に疑問点などは市の担当者に電話で確認しながら行っている。	必要な都度、区の担当者や本庁担当者などに連絡して対応している。また、地域においてはまちづくりセンターに相談しながら連携をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルをいつでも見ることができるようにしてあり、周知を図っている。	身体拘束をしない指針やマニュアルを整備している。職員を法人全体の院内研修会や介護労働安定センター・社協など主催の研修会に参加させ理解に努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後、勉強会等で実施していく予定			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、勉強会等で実施していく予定		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心がけ、内容を確認しながら行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で出た意見を運営に反映している。	ホーム便りを隔月に発行して、利用者の状況を家族に知らせている。意見箱はグループの病院受付に設置しており、行事につながるなどの意見がある。また、運営推進会議でも家族の方からの意見や要望を聞く機会となっており、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的には職員の自主性に任せており、管理者は意見の取りまとめ役に徹している。	ユニット会議のカンファレンスが毎月2回あり、全体会議も毎月1回開催して職員の意見や提案を聞き運営に反映している。また、個人面談は年2回実施して、人材育成や人事評価に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金を通じ、給与水準の適正化を図り、福利厚生等の処遇改善を行い整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別面談や、本人の希望や特性に応じた研修への参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者は2か月に1回、区の管理者会議にて同業者との交流をはかっている。その会の中で職員同士の交流を勉強会を通じて行う企画を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	目配り、気配り、声かけなど工夫し本人の希望を聞き出し関係づくりに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは必ず面談を行い、話を聴きだすようにし、その内容を職員と共有し関係作りに役立てている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者とは、一緒に話をしたりレクを楽しんだり、いろいろな仕事を手伝ってもらうことで関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にし、共に支える、というスタンスで接している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者への来訪者は快く受けている。また、手紙のやりとりの支援も行っている	利用者は市内地元の方が殆どのため、来訪者が週4・5人あるなど馴染みの人との関係が途切れないよう努めている。また、利用者の住んでいた自宅や周辺を送迎するなど関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で話が盛り上がるよう、職員がサポートするよう努めている。仲の良い入居者同士で入浴することもある。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これから実施していく予定		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネによるアセスメントや、都度本人の意向を聴きながら思いや意向を把握している	職員を利用者ひとり一人の担当者制として、アセスメントシートを活用して、細やかに本人の希望や意向を把握するよう努めている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネのアセスメントや、ご家族から話を聴いたりしながら把握に努めており、会話の中で本人から聞くこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の入居者の状況把握を職員同士で行っており、会議や日々の申し送りでも共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて職員の意見を聞き、ケアプランに反映している。	CMが利用者の意見や要望を聞き、担当者の意見や家族の意見・要望を取り入れ、ユニット会議でカンファレンスを行い全体の意見をまとめて、利用者の現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月サイクルだが状況により都度実施する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性を業務マニュアルにも明記しており、正しく記入し、職員間で共有しながら活かせるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じた柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平日の昼食を、近所の障がい者就労支援施設に依頼しており、入居者と共に取りに行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じ、他院の受診を支援している。	今迄のかかりつけ医は継続しており、大谷地東地区の通院は、職員が同行して受診支援をしている。それ以外の地域の通院は家族同伴で受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と協力しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入退院時には、病院関係者と連携している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に書面で説明している	重度化や終末期に向けた指針等は入居時に説明し、同意も得ている。看護師の訪問が毎日有り、法人グループの隣接した病院と内線電話で繋がっており、24時間の医療連携体制が構築されており、看取りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践では発生していないが、急変時もマニュアルを整備し周知している。また、今後応急手当や初期対応訓練を実施していく予定である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施するとともに隣接する母体病院との協力体制ができている	避難訓練は、消防署の指導の下、家族協力にて実施しており、災害対策は、法人グループの隣接病院を避難場所として、緊急連絡体制や防災センターなど連携した体制が構築されている。食材等の備蓄も準備するなど対策に取り組んでいる。	避難訓練など定期的を実施して、災害対策も法人グループと連携して整備しているが、避難用のグッズや多めの水などの準備も期待したい。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声のかけ方については、よく考えてから言葉に出すよう、会議等で話し合っている。	月一回の会議の前に、管理者による声掛け等のマナーについてのミニ講座を実施して、職員の人格の尊重やプライバシー確保の意識啓蒙に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に尋ねたり、選択肢を提示し選んでもらうことで、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースに合わせた対応を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に出張カットを行ったり、外出時の服選びなど本人と相談しながら行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる入居者には調理や後片付けなど手伝ってもらったりしている。また、イベント食を定期的にも実施し、楽しい食事を支援している	食事はグループ内の就労継続支援事業所が担当しており、週間単位の献立であるが、土日は職員が工夫して調理に当たっている。利用者は準備や片付けを手伝いながら、職員と一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、必要に応じた捕食や水分の促しを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを支援すると共に、週1回の訪問歯科において、口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するとともに、自立でも間隔があいているときは、さりげなく声をかけたりしている。	排泄チェック表を基に個人個人の排泄パターンを把握して、さりげない声掛けなどでトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間などは、ポータブルトイレも活用して自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫だけでなく、主治医や訪問看護師とも連携し対応を行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっているが、個々の状況に応じ臨機応変に対応している。	入浴は週二回を予定しており、利用者の状況に合わせて対応している。1階の浴室は、車椅子入浴の特殊浴槽で、介護度の重い方も入浴できる。利用者同士二人で入浴の時もあるほど、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じて安眠、休息できるよう支援している。様子を見ながら、日中でも部屋で休息する思念を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の状況にあった服薬の支援や症状の変化の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	7月からデイも実施しており、レクを中心に日々楽しめるよう支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の協力は無いが、個々の状況に応じ外出支援を行っている。	法人の病院を中心とした広大な敷地な為、敷地内の散歩や病院の売店、近隣のコンビニなど日常的に外出の支援をしている。家族同伴での外出は頻繁で、いちご狩りや滝野すずらん公園、ショッピングセンターなどの外出行事も毎月あり、楽しみな外出となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる範囲で支援している。個人で財布を持ち自分で支払う方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望により電話をかけたりや手紙を出したりする支援を行っている。携帯電話を使用している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な場所には手すりを設置しバリアフリーとなっている。職員は不快感の内容に注意している	採光や風通しもよく、壁などの配色は、法人グループの病院による精神医療面の知識を活かしており、明るい感じの落ち着いた風合いである。また、廊下も広く、車椅子が交差できるほどの幅となっており、全体的にゆったりとしたつくりである。居室名が季節の果物にして、利用者が分かりやすいよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は自然と決まっている。それぞれの方が居心地のいい場所に落ち着いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、本人・家族の自由に行っている。相談を受けたときは必要なアドバイスを行っている	居室は、洗面台・収納が設置され、特殊寝台も整備されている。白とベージュを基調とした壁の配色で、落ち着いた感じである。利用者が使い慣れた家具や馴染みの物などを持参して、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所には手すりを設置しバリアフリーとなっている。職員はできること、できないことを見極め支援するよう努めている。		